

令和 4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	(株) ライム倶楽部山下		
事業所名	グループホーム来夢の家		
所在地	(〒238-0046) 神奈川県横須賀市西逸見町1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も昨年同様、コロナ禍で地域との交流が出来ない年だが、少しずつ近隣の公園や保育所との交流を開始し、共に楽しむ工夫と努力を続けている。地域との懸念材料であった非常時や災害時の協力関係についても、今後検討していきます。  
面会は、面会制限を続けて来ましたが、徐々に個別にガラス越しやドア越しの方法で面会をしていただいております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年11月18日	評価機関 評価決定日	令和4年12月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇地域との交流 ・近隣の保育園から訪問再開を受け、玄関口での対応だが、園児から花を貰ったり、ハロウインの仮装を見るなどして交流している。 ・事業所は海に近い立地で、避難先は高台としているが、車椅子利用者が多いため、隣接のビルと協定を結び、緊急避難先としている。 ◇職員を育てる取り組み ・定期的な内部研修の他に、毎月のミーティングでも、状況に応じた研修を行っている。また、外部研修の情報を職員に提供し、資格取得を積極的に勧めている。研修費は法人負担で、受講日は出勤扱いとしている。 ・職員は、研修受講後に報告書を提出している。管理者は、報告書の内容に理解不足がある場合は、個別指導するなど、職員の育成に努めている。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇コロナ禍に対する工夫 ・コロナで外出制限中のため、歌唱、ゲーム、盆踊り大会、七夕などの室内レクリエーションの充実を図っている。事業所発行の「来夢日和」に、行事での利用者の様子を詳しく記載し、家族からの安心を得ている。 ・コロナ対策を取った上で、家族との面会、花見、近隣のコンビニでの買い物を再開して、利用者本位の暮らしの実践に努めている。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	来夢の家
ユニット名	壱番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護業務に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を事務室に掲示している。職員は、毎日のミーティングで理念を唱和し、利用者中心の介護の実践に努めている。</li> <li>・利用者の意向を尊重し、強制したり、急がせたりせず、自宅にいるような環境作りを心掛けている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、コロナ禍により、地域の行事や各種の交流も自粛になっています。これは、我々だけの問題ではなく、広く地域の問題でもあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入して、行事に参加していた。行事の再開を待っている。</li> <li>・近隣の保育園児の訪問がある。花を貰ったり、ハロウインの衣装を見たりして、玄関口で交流している。</li> <li>・散歩の途中で、近所のコンビニで買い物をする利用者がある。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様、コロナ禍により、地域の行事や各種の交流も自粛になっています。認知症に関する交流もできておりません。人に接する機会が減ると、季節や地域のことも忘れてしまいます。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も来夢の家で開催することが出来なため、地区会長と電話で話し、来夢の家の現状を書面にまとめ、郵送してご理解をえる方法をとっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は民生委員、町内会長、利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員が構成メンバーで、現在は書面で事業所の状況を報告している。</li> <li>・町内会長には、電話でも報告している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定や介護改善手当等の計画・報告等で現状を報告し、理解を頂けるよう努力している。その他、横須賀市の高齢者サービスの利用を続け、利用者の利益になるよう協力している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の介護保険や生活保護の関係部署と連絡を密に取り、事業所の現状を伝えている。</li> <li>・市からは、研修や衛生用品の配布などの情報提供がある。事業所から、市に、施設の改修の相談をして、補助を受けている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	一番館では、現在身体拘束をする状態の利用者はいません。毎月、身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束について、スタッフの正しい理解に努めています。	・毎月、研修を兼ねた身体拘束適正化委員会を開催している。 ・利用者1名が、車椅子から複数回、転倒した。予防のため、家族からの同意を得て、拘束ベルトを使用している。毎月、状況の見直しを行い、ケアを工夫している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について学習し、各フロアでも話し合う機会を作っている。特に、言葉の暴力について重要性を置いている。スピーチロックは日常の中に潜む虐待と理解するよいるにしている。	・職員は虐待防止の研修を受け、具体的な事例を学習して、虐待への理解を深めている。特に、スピーチロックをしないケアを話し合い、職員間で注意し合っている。 ・職員の気になる言動には、管理者がその場で指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にてスタッフ同士が共に学びあう機会を作り、共に研鑽していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、利用契約書・重要事項説明書を説明し、十分な理解を得る。日常の介護の面でも個別のケアについて説明し、ご理解を得るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで生活する中で、コロナ禍におけるご家族の心配事が増している時期です。面会も出来ないで要望や希望を伝えることの出来ないことで、不満となることの無いよう連絡をとる努力をしている。	・電話で家族と連絡を取り合い、要望を聞いている。 ・コロナ禍で面会は制限しているが、家族から要望があればドア越しに短時間の面会を行っている。 ・利用者からの食事やゲームの希望には出来るだけ応じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議や各月のスタッフミーティングにおいて、施設の運営について、意見を聞く機会を設け、その都度説明をしている。	・会議やミーティングで、職員からの意見や提案を聞いている。また、日常の会話でも気軽に意見が言えるよう心掛けている。 ・職員の意見に応じて、介護用品の新規導入を行っている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、就業環境の整備について、法人との意見をすり合わせ、賃金改定等を労務とのバランスを考え、水準アップに心掛けている。最低賃金を上回る賃金の改定に努力し、職場の環境を整える	・管理者は、人事考課を行い、職員の処遇改善を図っている。 ・代表者は、職員からの要望を受け、隣接のマンションの1室を職員休憩室にした。宿泊やテレビ視聴も可能で、事業所内の休憩室より寛げると好評である。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の資格取得に向けた意欲と、事業所の必要と思われる知識を得よう努めている。特に、内部研修では、時期に応じてタイムリーな題材を学び、業務に活かす努力をしている。	・年6回の内部研修計画を立て、随時、追加研修も行っている。 ・外部研修の情報を職員に提示し、資格取得を促している。研修費用は法人負担で、出勤扱いとしている。 ・全職員が、受講報告の閲覧が可能で、ケアに活用している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀のグループホーム協議会の主催する研修や交流ができないので、来夢の家だけで学び、研鑽している。施設間の相互訪問が出来るようになったらすぐにも参加する。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入居される方々に対して、施設での生活を不安なく、安心して過ごせるように努力します。大切な、受容をを基本として、傾聴する姿勢で接し、他のご利用者との関係作りに励みます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて利用されるご家族は、施設の生活に心配と、不安があります。スタッフの介護がどの程度か分からず、調べることもできないので、情報の発信は、出来るだけ行い、要望には積極的に応えます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に必ず面接をさせていただき、ご本人とご家族の状況、要望、援助内容を伝え、グループホーム以外のサービス利用についても検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同性介助を基本として、介護を受ける方々の意向と、利用者同士の個性を尊重し、話好きな方や個人が好きな方や、グループ関係が好きな方等の関係を作っていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、お世話になっていると言う弱みではなく、施設の介護に口を出していただくことを目指す。ご家族の昔の話は、とても介護に役立つ情報であり、利用者との会話に役立つ。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、入居前に関係があった方々との交流はできませんが、手紙や写真等を有効に利用し、関係維持をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話や写真を添えた便りで、家族と交流できるように支援している。</li> <li>・利用者は職員の支援で、毎年、年賀状を出している。知人からの手紙には、返信内容を利用者職員と一緒に考えて、一部代筆するなど、交流の継続に努めている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の生活リズムと個性を理解し、それぞれの生活リズムを合わせることも必要に応じて行い、食事やグループワークなども通じて、関係が築けるよう援助する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居前のケアマネや在宅サービスの関係者に働きかけ、時間を作っていただき、行事や食事に参加していただき、有効な時を過ごす機会を作っていたが、今はコロナ禍でなかなか実行できていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情等からご本人様の意向をくみ取り、日常の生活に活かしている。狭い施設の中で出来るだけその人らしさを出せるよう働きかけたいと思っている。困難な状況では、利用者ファーストで考え、工夫している。	・利用者からの希望はできるだけ応じている。把握困難な利用者には表情や言動から思いを汲み取って、利用者本位の暮らしにしている。 ・利用者の様子を見て、ゲームの参加方法を工夫したり、好みの歌を唱和したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力のできる事柄には積極的に参加していただけるよう働きかける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の生活援助と介護プランの見直しのための課題評価を毎月のフローア介護にて見直し、ケア計画に反映している。	・入居時に利用者と家族から情報を得て、介護計画を立てている。ケアカンファレンスでの医療関係者と職員からの情報をもとに、原則、6か月ごとに更新している。 ・毎月の会議で情報共有し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を日々時系列で記録し、職員の勤務交代に申し送る資料としている。個々の情報は、スタッフ共通の情報として共有するために申し送りは活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに必ず体制作りは、その都度その場で検討していく。急な病院受診やご家族の希望等も配慮する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であり、コロナ禍の影響で地域との協力関係や資源発見ができなくなり、とても残念に思っている。施設内では、出来るだけ自力で考え判断し、楽しめるよう配慮している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、利用者が希望し受診がスムーズに出来るよう配慮していただいている。往診は、内科・精神科・歯科が主で定期的に診ていただき、それ以外の医療機関については、近隣の開業医に受診する。	・現在、利用者全員は、月二回、協力医療機関の医師の訪問診察を受けている。メンタルクリニックは月一回受けている。 ・整形外科や皮膚科の診療は、原則、職員が保有自動車により連れ添っている。受審結果は、連絡ノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、週3回非常勤で勤務し、医師からの指示に従い、利用者の処置や健康チェック・各種助言等を行っている。健康維持を目指して、衛生的な指導も行い、感染症の予防にも役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の状況について、病院等の医療スタッフに状況を聞き入れ、把握し、ご家族との情報の共有に務め、早期の回復や退院に向けた準備等を働きかける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、出来るだけご家族に施設に来ていただき、共に介護の場面に接していただき、状況を確認していただくようにする。終末期にある場合は、医療行為ができない状態で介護の看取りをする説明を十分に行い、ご理解いただいている。	・重度化や終末期に備えて、「重度化・終末期ケア対応指針」を作成している。協力医療機関の医師や看護師と連携を図っている。 ・看取りの最近の実績は、複数ある。急変等の場合は、事前の打ち合わせに基づき、連絡体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加して、AEDも備え実際に使えるように講習もする。利用者の急変については、個々の変化の状況を把握し、事前にご家族と話し合い、優先度を決めて選択している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	売番館・武番館は室内のレイアウトが似ているため、火災や災害の際は、生命を守ることを第一に行動する。避難を優先し、火災の消火は消防機関に任せる。災害時は、地域全体がパニックなので、ホーム内で安全な場所の確保を行う。	・防火管理者を設置し、年2回の消火、通報及び避難訓練を実施している。海に近く、避難場所は近くの高台のほか、隣の建物が利用できる。 ・2階は車イス利用者が多く、ベランダに避難し、緊急時は、布団を使い階段を滑らず救助を試している。	・備品リストは、職員休憩室や所定の下駄箱に掲示しています。賞味期限を明示することで、安心して使えるようになることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、個人の尊厳を大事にしている。個人のプライバシーの保護も行い、情報の保護に役立っている。	・職員は、利用者への言葉使いや態度に注意をはらい、「ちゃん付け」や子ども扱いのないように心掛けている。 ・入浴や排泄時には、プライバシーの確保や誇りを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の生活を個別に判断し、自己決定を促すことを重視する。皆様の声を傾聴し、希望や要望に応えるよう努力する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のより一日の過ごし方があります。居室に終日入り、誰とも接することのない場合には、過ごす場所や人、時間等を調整することがありますが、できるだけ、個々の希望に沿って援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には洗面台に鏡があり、共用の洗面台にも大きな鏡があります。個人の身なりや髪型、服装等を整える最適な場所です。床屋さんも各月に来訪し散髪してくれています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、業者の献立に沿ったメニューとなっており、カロリーや栄養面で安心している。行事等で入居者からの要望に沿った献立作りを行い、共に調理して楽しんでいる。	・朝食は、週三回のパン食かごはん食を選択し、昼食は、うどん、ピラフ、丼ものとメニューは多く、楽しむ食事となるよう努めている。 ・敬老会の昼食は、大人気のお寿司があり、手作りおでんを楽しみ、水ようかんのおやつには、格別の喜びが報告された。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材納入業者に栄養士がおり、1食単位のカロリーや栄養面で理解でき、アレルギーや好き嫌い、習慣の違い等により食べられない食材は、あらかじめ交換してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き等の口腔ケアを行い、衛生を保っている。介助が必要な人は、一人ずつ居室でケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個別の援助に努めている。時系列の排泄表もあり、過去の状況と比べ、回数や量、形状等の様子も確認している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレでの排泄や排泄の自立に向けて、排泄パターンを把握するため、時系列の排泄表、回数、量・形状を記録している。</li> <li>・オムツを少なくするために、個別の対応を念頭に置き、昼間と夜間の使用、リハビリパンツの利用、パットの当て方を試みている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防は、過去の排便状況を把握し、分析し促すようにしている。なかなか、出にくい場合は、水分の補給や運動、腹部の圧迫等を行い、排便を促している。それでも便秘が続くようであれば、看護師と協力し内服等も検討医師に上申する。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、一人当たり週2～3回の回数で入っている。時間は13時から15時までの時間で行うが、時としてその時間では、入浴ができない場合、午前中や個々の都合によって入る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴を楽しみに待ち、気分転換になるように、原則、週2～3回、午後1～3時に行っている。</li> <li>・利用者の希望やタイミングに合わせて行い、2人介助の場合もある。話や歌に盛り上がることもある。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や個性は、個人の尊重で重要視している。休息や安眠は、誰にでも大切に、健康は安眠からとも言われる。夜間の排せつは安眠を妨げるため、短時間で言うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診があり、ほぼ全員が服薬の処方を受けている。処方箋にて内容や量を把握し、与薬しやすいように専用の箱に入れ、個々の状態に適した服薬を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意、不得意により楽しみは様々になり、種類が多くなってしまうが、若い頃や若い頃に覚えた遊びは誰でも共通で、特に歌は皆さんが良く覚えているので、歌を歌う機会を多くしている。皆さん楽しそうです。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、なかなか外に出歩くことが出来なかったが、感染者数も落ち着き、花の咲くことをみて、近所に個別で出かけている。散歩して、コンビニで買い物して、花を見て帰るコースは人気があります。	・やっと外出ができるようになり、買い物や散歩に行き始めている。季節により、桜、ツバキ、ツツジやスキを見るコースは人気がある。 ・車イスの利用者は、2階ベランダや玄関先で、日なたを楽しみ、また、気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ご家族が管理している方々が多いです。日常の消耗品を買い足すぐらいの物は、コンビニに行き買い物をします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、皆さんに奨励しており、携帯電話を使い事が困難なので、施設の代表電話を利用しています。中々電話にでない方もおられますが、留守電で安心するみたいです。それと、お孫さんと手紙のやり取りえおして写真を送ることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは密を避けて大きな空間としています。空調は、快適に作動し、温度・湿度の管理も行っていきます。季節の花や行事のポスター、飾りを装飾し楽しんでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた広いダイニングルームで、楽しく会話のできる空間を提供している。</li> <li>・広く明るいキッチンがダイニングルームの前に設置され、お手伝いや料理作りを楽しむように努めている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのスペースには、ソファがあり、ゆっくりとくつろぐことができ、個々の思いに最適な居場所が確保できています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個別のプライベートの空間です。皆さんが入居前に使っていた家具や丁度品があり、安らげる場所だと思っています。ご主事様の写真や仏壇等も置いている方もあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室は、洗面所、エアコン、空気清浄機、カーテン、クローゼットを標準装備している。</li> <li>・利用者は、使い慣れた家具や家族写真、愛用品を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に状況による生活スタイルを考え、広い空間と廊下がつながった構造となっています。フラットな床は板張りで、感触も良く怪我を防ぐようです。		

事業所名	来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護業務に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、コロナ禍により、地域の行事や各種の交流も自粛になっています。これは、我々だけの問題ではなく、広く地域の問題でもあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様、コロナ禍により、地域の行事や各種の交流も自粛になっています。認知症に関する交流もできておりません。人に接する機会が減ると、季節や地域のことまで忘れてしまいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も来夢の家で開催することが出来ないため、地区会長と電話で話し、来夢の家の現状を書面にまとめ、郵送してご理解をえる方法をとっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定や介護改善手当等の計画・報告等で現状を報告し、理解を頂けるよう努力している。その他、横須賀市の高齢者サービスの利用を続け、利用者の利益になるよう協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	式番館では、1名の身体拘束を必要とする利用者がいます。毎月、身体拘束適正化委員会を開催し、拘束について見直す話し合いをしています。結果的には、いまでも行っていますが、拘束をする時間と、必要性を全員が理解し、できるだけ拘束しない介護を目指しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について学習し、各フロアでも話し合う機会を作っている。特に、言葉の暴力について重要性を置いている。スピーチロックは日常の中に潜む虐待と理解するよいるにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にてスタッフ同士が共に学びあう機会を作り、共に研鑽していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、利用契約書・重要事項説明書を説明し、十分な理解を得る。日常の介護の面でも個別のケアについて説明し、ご理解を得るように努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで生活する中で、コロナ禍におけるご家族の心配事が増している時期です。面会も出来ないで要望や希望を伝えることの出来ないことで、不満となることの無いよう連絡をとる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議や各月のスタッフミーティングにおいて、施設の運営について、意見を聞く機会を設け、その都度説明をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、就業環境の整備について、法人との意見をすり合わせ、賃金改定等を労務とのバランスを考え、水準アップに心掛けている。最低賃金を上回る賃金の改定に努力し、職場の環境を整える		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の資格取得に向けた意欲と、事業所の必要と思われる知識を得るよう努めている。特に、内部研修では、時期に応じてタイムリーな題材を学び、業務に活かす努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀のグループホーム協議会の主催する研修や交流ができないので、来夢の家だけで学び、研鑽している。施設間の相互訪問が出来るようになったらすぐにでも参加する。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入居される方々に対して、施設での生活を不安なく、安心して過ごせるように努力します。大切な、受容をを基本として、傾聴する姿勢で接し、他のご利用者との関係作りに励みます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて利用されるご家族は、施設の生活に心配と、不安があります。スタッフの介護がどの程度か分からず、調べることもできないので、情報の発信は、出来るだけ行い、要望には積極的に応えます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に必ず面接をさせていただき、ご本人とご家族の状況、要望、援助内容を伝え、グループホーム以外のサービス利用についても検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同性介助を基本として、介護を受ける方々の意向と、利用者同士の個性を尊重し、話好きな方や個人が好き好きな方や、グループ関係が好き好きな方等の関係を作っていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、お世話になっていると言う弱みではなく、施設の介護に口を出していただくことを目指す。ご家族の昔の話は、とても介護に役立つ情報であり、利用者との会話に役立つ。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、入居前に関係があった方々との交流はできませんが、手紙や写真等を有効に利用し、関係維持をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の生活リズムと個性を理解し、それぞれの生活リズムを合わせることも必要に応じて行い、食事やグループワークなども通じて、関係が築けるよう援助する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居前のケアマネや在宅サービスの関係者に働きかけ、時間を作っていただき、行事や食事に参加していただき、有効な時を過ごす機会を作っていたが、今はコロナ禍でなかなか実行できていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情等からご本人様の意向をくみ取り、日常の生活に活かしている。狭い施設の中で出来るだけその人らしさを出せるよう働きかけたいと思っている。困難な状況では、利用者ファーストで考え、工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力のできる事柄には積極的に参加していただけるよう働きかける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の生活援助と介護プランの見直しのための課題評価を毎月のフロアー介護にて見直し、ケア計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を日々時系列で記録し、職員の勤務交代に申し送る資料としている。個々の情報は、スタッフ共通の情報として共有するために申し送りは活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに必ず体制作りは、その都度その場で検討していく。急な病院受診やご家族の希望等も配慮する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であり、コロナ禍の影響で地域との協力関係や資源発見ができなくなり、とても残念に思っている。施設内では、出来るだけ自力で考え判断し、楽しめるよう配慮している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、利用者が希望し受診がスムーズに出来るよう配慮していただいている。往診は、内科・精神科・歯科が主で定期的に診ていただき、それ以外の医療機関については、近隣の開業医に受診する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、週3回非常勤で勤務し、医師からの指示に従い、利用者の処置や健康チェック・各種助言等を行っている。健康維持を目指して、衛生的な指導も行い、感染症の予防にも役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の状況について、病院等の医療スタッフに状況を聞き入れ、把握し、ご家族との情報の共有に務め、早期の回復や退院に向けた準備等を働きかける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、出来るだけご家族に施設に来ていただき、共に介護の場面に接していただき、状況を確認していただくようにする。終末期にある場合は、医療行為ができない状態で介護の看取りをする説明を十分に行い、ご理解していただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加して、AEDも備え実際に使えるように講習もする。利用者の急変については、個々の変化の状況を把握し、事前にご家族と話し合い、優先度を決めて選択している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	壺番館・式番館は室内のレイアウトが似ているため、火災や災害の際は、生命を守ることを第一に行動する。避難を優先し、火災の消火は消防機関に任せる。災害時は、地域全体がパニックなので、ホーム内で安全な場所の確保を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、個人の尊厳を大事にしている。個人のプライバシーの保護も行い、情報の保護に役立てる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の生活を個別に判断し、自己決定を促すことを重視する。皆様の声を傾聴し、希望や要望に応えるよう努力する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のより一日の過ごし方があります。居室に終日入り、誰とも接することのない場合には、過ごす場所や人、時間等を調整することがありますが、できるだけ、個々の希望に沿って援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には洗面台に鏡があり、共用の洗面台にも大きな鏡があります。個人の身なりや髪型、服装等を整える最適な場所です。床屋さんも各月に来訪し散髪してくれています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、業者の献立に沿ったメニューとなっており、カロリーや栄養面で安心している。行事等で入居者からの要望に沿った献立作りを行い、共に調理して楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材納入業者に栄養士がおり、1食単位のカロリーや栄養面で理解でき、アレルギーや好き嫌い、習慣の違い等により食べられない食材は、あらかじめ交換してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き等の口腔ケアを行い、衛生を保っている。介助が必要な人は、一人ずつ居室でケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個別の援助に努めている。時系列の排泄表もあり、過去の状況と比べ、回数や量、形状等の様子も確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防は、過去の排便状況を把握し、分析し促すようにしている。なかなか、出にくい場合は、水分の補給や運動、腹部の圧迫等を行い、排便を促している。それでも便秘が続くようであれば、看護師と協力し内服等も検討医師に上申する。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、一人当たり週2～3回の回数で入っている。時間は13時から15時までの時間で行うが、時としてその時間では、入浴ができない場合、午前中や個々の都合によって入る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や個性は、個人の尊重で重要視している。休息や安眠は、誰にでも大切で、健康は安眠からとも言われる。夜間の排せつは安眠を妨げるため、短時間で行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診があり、ほぼ全員が服薬の処方を受けている。処方箋にて内容や量を把握し、与薬しやすいように専用の箱に入れ、個々の状態に適した服薬を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意、不得意により楽しみは様々になり、種類が多くなってしまいが、幼い頃や若い頃に覚えた遊びは誰でも共通で、特に歌は皆さんが良く覚えているので、歌を歌う機会を多くしている。皆さん楽しそうです。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、なかなか外に出歩くことが出来なかったが、感染者数も落ち着き、花の咲くことをみて、近所に個別で出かけている。散歩して、コンビニで買い物して、花を見て帰るコースは人気があります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ご家族が管理している方々が多いです。日常の消耗品を買い足すぐらいの物は、コンビニに行って買い物してきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、皆さんに奨励しており、携帯電話を使い事が困難なので、施設の代表電話を利用しています。中々電話にでない方もおられますが、留守電で安心するみたいです。それと、お孫さんと手紙のやり取りえおして写真を送ることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは密を避けて大きな空間としています。空調は、快適に作動し、温度・湿度の管理も行っています。季節の花や行事のポスター、飾りを装飾し楽しんでいきます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのスペースには、ソファがあり、ゆっくりとくつろぐことができ、個々の思いに最適な居場所が確保できています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個別のプライベートの空間です。皆さんが入居前に使っていた家具や丁度品があり、安らげる場所だと思っています。ご主事様の写真や仏壇等も置いている方もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に状況による生活スタイルを考え、広い空間と廊下がつながった構造となっています。フラットな床は板張りで、感触も良く怪我を防ぐようです。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 来夢の家

作成日 令和4年12月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	現状は、災害非常物品等を倉庫に収納し、在庫の管理を行い、災害非常物品票フロアに掲示しているが、表には非常食の消費年月日の掲載がなく、管理ができていない状態だった。	非常食等は長期の保管能力があり、消費年月日を忘れがちである。災害非常物品表を作り直し、消費年月日を記載して、管理しやすいものとする。	収納してある物品を整理して、具体的な品物・個数・消費年月日を確認し、管理表を作成する。	1か月 令和5年1月末とする。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。